

ごみの減量・リサイクルへの取り組み

1人が1日に出すごみの量

福島県が全国で

ワースト1位に!!

(環境省発表 令和4年度調査結果)

ごみの総量に対し、リサイクル

された量の割合である

リサイクル率はワースト2位

全国平均	880 g	比較	
福島県	1,021 g	全国平均	福島県
白河市	1,026 g	+ 146 g	+ 5 g
矢吹町	929 g	+ 49 g	▲ 92 g
西郷村	987 g	+ 107 g	▲ 34 g
泉崎村	920 g	+ 40 g	▲ 101 g
中島村	716 g	▲ 164 g	▲ 305 g

当地域のごみの発生・処理状況をふまえ、次の3項目を基本として
より一層の「ごみの減量」と「リサイクル」への取り組みにご協力ください。

3 R 活動の推進

Reduce (リデュース)

無駄なごみの量をできるだけ少なくする。

マイバッグの持参、水筒(飲料)の利用、洗剤等は
詰替用を選ぶ、手入れや修理をして長く使うなど

Reuse (リユース)

一度使ったものをごみにしないで何度も使う。

リターナブル容器を選ぶ、捨てずにフリーマーケット
や古本屋、リサイクルショップを利用するなど

Recycle (リサイクル)

使い終わったものをもう一度資源に戻して製品を作る。

びん、缶、ペットボトル、容器包装などをきちんと
分別する、リサイクルされた商品を選ぶなど

分別の徹底

燃えるごみの中には、リサイクル可能な紙類(新聞・
雑誌類・段ボール・紙パック・紙製容器包装)や リサ
イクル可能なプラスチック製容器包装類が多く含まれて
いました。(可燃ごみ組成分析結果 令和4年10月)

分別を徹底することで、燃えるごみの量を減らし、
リサイクル率の向上にもつながります。

また、それぞれを決められた方法により排出すること
で「燃えるごみ・燃えないごみの指定袋」の節約につな
がります。詳しくは、パンフレット「資源とごみの正し
い分け方と出し方」18頁、19頁、25頁でご確認ください。

生ごみの減量

当地域のごみは、全体のごみの量の約86%が「燃えるごみ」であり、そのうち約35%が「生ごみ類」
という結果が出ています。(可燃ごみ組成分析結果 令和4年10月)

生ごみについては、まずは食品ロスを減らすために、食材を無駄にしないよう心がけることが重要です。

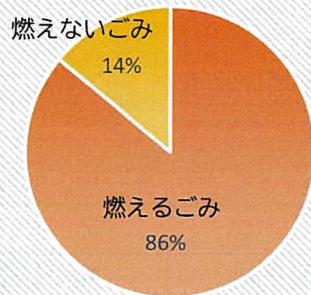
また、生ごみに多く含まれている水分を取り除くために、水切りや乾燥をさせること、さらには堆肥に
利用することで、多くの燃えるごみの量を減らすことができます。

— お問い合わせ —

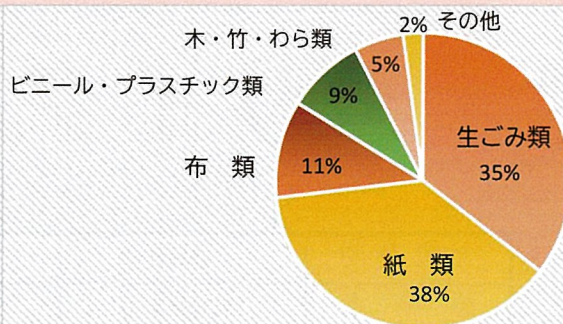
白河市役所 環境保全課 環境衛生係 TEL 22-1111 (内線2187) 矢吹町役場 まちづくり推進課 環境衛生係 TEL 42-2112 (直通)
表郷庁舎 地域振興課 総務係 TEL 32-2111 (直通) 西郷村役場 環境保全課 環境衛生係 TEL 25-2197 (直通)
大信庁舎 地域振興課 総務係 TEL 46-2111 (直通) 泉崎村役場 住民生活課 TEL 53-2112 (直通)
東 庁 舎 地域振興課 総務係 TEL 34-2112 (直通) 中島村役場 住民生活課 住民生活係 TEL 52-2112 (直通)
西白河地方クリーンセンター・西白河地方リサイクルプラザ・白河地方広域市町村圏整備組合 衛生課 TEL 28-3558 (直通)

裏面もご覧ください。

当地域のごみの発生状況



燃えるごみ・燃えないごみの割合



燃えるごみの内訳

紙類38%の中に、資源物となる古紙類や紙製容器包装が16%（全体の6%）含まれていました。
ビニール・プラスチック類9%の中に資源物となるプラスチック製容器包装類が7%（全体の1%）が含まれていました。

まずは、当地域のごみの86%を占める「燃えるごみの減量」に取り組みましょう!!

1. 燃えるごみに含まれるおよそ35%の「生ごみ類」を減らしましょう!

- ①生ごみの水切り 生ごみはおよそ80～90%が水分といわれています。50%の水分を減らすことで年間5,100tの減量となります。

【方法】
☐ 水切りネットを使用して水切りをする。
☐ すぐには捨てないで一晩乾燥させてから捨てる。
☐ ペットボトルの注ぎ口などを利用して水切りをする。
☐ 市販の水切りグッズなどを利用する。

【検索】 詳しくは「生ごみ 水切り方法」で検索してみてください。

- ②生ごみの堆肥化 生ごみをすべて堆肥化できれば、年間12,100tの減量となります。

【方法】
☐ 家の庭や畑を活用した堆肥づくり。
☐ ダンボールやプランターなどの容器を活用した堆肥づくり。
☐ 電動式生ごみ処理機を使った堆肥づくり。

【検索】 詳しくは「生ごみ 堆肥化」で検索してみてください。

③食品ロスを減らす

【方法】
☐ 家庭では「買いすぎない」「作りすぎない」「食べ残さない」を心がけましょう。
また、食材に応じて適切に保存し、無駄なく使いましょう。
☐ 外食の際は、小盛メニューやハーフサイズを利用し、美味しく食べきりましょう。

【賞味期限と消費期限について】

賞味期限 … おいしく食べることができる期限。すぐに食べられなくなるわけではありません。

消費期限 … 過ぎたら食べない方がよい期限。

— パンフレット「資源とごみの正しい分け方と出し方」10頁、11頁にも詳しく掲載しています。 —

2. 燃えるごみの中から、資源物（古紙類・紙製容器包装）を分けて出しましょう!

紙類はまず分別しましょう。資源物である古紙類や紙製容器包装に分別できるものが、燃えるごみの中にたくさん含まれています。分別により年間6%（2,000t）の減量となります。



3. 燃えるごみの中から、資源物（プラスチック製容器包装）を分けて出しましょう!

資源物であるプラスチック製容器包装に分別できるものがたくさん含まれています。分別により年間1%（210t）の減量となります。



4. 衣類をリサイクルしましょう!

衣類には、リサイクルできるものとして「資源ごみの指定袋」で出せるものがありますので、パンフレット「資源とごみの正しい分け方と出し方」21頁、77頁をご確認ください。

— 資源物として分別することで、「燃えるごみ・燃えないごみの指定袋」の節約につながります。 —